

2013 年度 小委員会活動成果報告

(2014 年 2 月 10 日作成)

小委員会名	環境振動設計小委員会	主 査 名：濱本卓司 就任年月：2011 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (環境振動運営委員会)	委員長名：田辺 新一 主 査 名：横山 裕
設 置 期 間	2011 年 4 月 ～ 2015 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2011 年度：「建築物の振動に関する居住性能評価指針同解説」の問題点を、設計の観点から整理する。 ・ 2012 年度：現在の性能評価指針を「評価指針」と「設計指針」に分離するための方法を検討する。 ・ 2013 年度：「設計指針」の目次案及び原稿素案を提示する。 	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無 主査：濱本卓司 (東京都市大学) 幹事：国松 直 (産業技術総合研究所) 委員：横山 裕 (東京工業大学), 石川孝重 (日本女子大学), 松本泰尚 (埼玉大学)	
設置 WG (WG 名：目的)		
2013 年度予算	20,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s17/AIJ_EVindex.html

項 目	自己評価
委員会開催数	2 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	1. (名称) 第 32 回環境振動シンポジウム 参加者数 101 名 (資料名) 同上
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 「設計指針」の目次案及び原稿素案を提示した。 2. 環境振動シンポジウム(2014 年 1 月 11 日)の講演で活動内容を公表した。
委員会活動の問題点 ・課題	1. ここまではフレーム作りのため少人数で委員会を開催してきたが、原案が完成したので、今後は具体的な「設計指針」の内容を詰める作業に移行する。このため、委員公募により複数の設計実務者を委員会に加える必要がある。

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

* 表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

2013 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> A B C D </div>
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>新たに作成される「設計指針」はおおよそ以下の内容を含むように記述することに関しコンセンサスが得られた。予定通り、各項目を実務設計者を含めて検討する段階に移行できることになったという観点から中間年度としての自己評価を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境振動設計の対象事例 <ol style="list-style-type: none"> 1.1 振動源の多様性が引き起こす事例 <ol style="list-style-type: none"> (1) 風による不快振動 (2) 長周期地震に対する備え (3) 交通システムの変化 (4) 眠らない都市 (5) 都市の新陳代謝 (6) 群衆振動の発生 1.2 建物の振動感受性の変化 <ol style="list-style-type: none"> (1) 揺れやすい建物の増加 (2) 建物のマンマシン化 (3) 建物の多目的化 (4) 建物の長寿命化 1.3 ライフスタイルの変化が引き起こす事例 2. 環境振動の要求性能 <ol style="list-style-type: none"> 2.1 居住性と必要経費のバランス 2.2 要求性能の表現 2.3 「個」と「群」の要求性能の違い <ol style="list-style-type: none"> (1) 個人的要求性能 (2) 社会的要求性能 (3) 恕限度の設定 3. 環境振動性能設計マトリクスの構築 4. 環境振動のグループ化 5. 「評価」と「設計」の分離 ～ISO の場合～

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。